



発行 信太山に里山自然公園を求める連絡会

連絡先 NPO 法人信太の森FANクラブ 0725-44-8404 e-mail : hanaizm@ares.eonet.ne.jp



—カスミサンショウウオの卵囊—

絶滅危惧Ⅱ類（環境省）

西日本に生息する体長10cm位の小型のサンショウウオ

信太山では、2月の中頃、越冬地の丘陵から水辺に移動して産卵。桜の花が咲く頃孵化し、6月頃まで水辺で過ごし、やがて陸に上がる。

信太山市有地保全活用検討委員会

「基本方針」（案）を答申 ‘13/2/13

9月より検討されてきた「信太山市有地保全活用検討委員会」は、1月30日に検討委員会を開き、パブリックコメントで寄せられた市民の意見を受けて最終の審議を行った。その結果を2月13日、増田 昇検討委員長より辻 宏康市長へ「基本方針」（案）として答申された。

答申では、この事業の拠り所となる信太山丘陵に対する基本認識を次のように示し、里山的環境を保持し、活用していくことを明確に打ち出した。 和泉市HP参照（信太山丘陵検討委員会答申 で検索）

【理念】

- * 信太山丘陵は人々の営みにより里山的環境が維持されてきた歴史を持ち、湧水湿地、草地には貴重な動植物が生息するなど、本丘陵は生物多様性に富んでおり、次の世代へ継承していくべき市民の財産、地域のシンボルである。
- * 史跡や文化財が豊富な和泉市北部に位置する信太山丘陵は、地域の人々に親しまれてきた経緯と住宅市街地に囲まれている自然という稀な特性も有する。
- * この良き財産を守り、育てるため、公民協働により、自然と向かい合いながら継承して里山的環境を保持し、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習野の場として活用していく。

以下に、答申の一部を抜粋します。

【コンセプト】

答申では、事業の骨格となる考え方をコンセプトとして以下のように示している。

(1) シンボル・和泉らしさ

- * 和泉市は、かつて摂津・河内・和泉の三国のうち、和泉国の国府が置かれた地であったことから、史跡・文化財が豊富であり、とりわけ、信太山丘陵が位置する和泉市北部に集中して所在している。
- * これら歴史性と自然環境を踏まえつつ、これまで、この地で脈々と受け継がれてきた「人と自然の共生」を和泉の伝統として、今、和泉市で取り組んでいる自治基本条例に基づく「公民協働」を通じて、将来へと継承していく。

(2) 人と自然の共生

①自然と歴史を継承

* 湧水地・湿地、草地といった信太山丘陵の里山的環境は、自然に委ねられたまま守られてきたものではなく、長年にわたり、人間の営力をかけた活動の結果、維持されてきたものである。また、当該地域は大阪層群から成り、地質学的、自然史的にも貴重である。

こうした経緯及び自然の特性を踏まえ、保全活動、体験や学習を通じて、心のふるさととして、人と自然の関わりの歴史とともに、豊かな自然を次世代へ継承する。

また、次世代以降も、継続的な活動ができるよう、担い手を育成していく。

②自然と人が織り成す里山的環境を再生

散策や自然遊びができる場として、また、保全活動を通じて生きがいつくりの場として活用していく。

③多様な生物の生息・生育環境を守る

植生遷移の中で、環境応答を見ながら、科学的な知見とデータに裏付けされた自然の順応的管理に基づく息の長い取り

組みにより、多様な生物の生息・生育環境を守る。



点在する湧水湿地

【事業の方向性】

(1) 公園としての保全・活用の進め方

信太山丘陵にふさわしい、人と自然の新たな関わり、公と民の新たな協働を順応的に実践するプログラムをもった公園として保全・活用をめざす

- ①自然保全活動を利用の一形態と位置づける
 - ②計画段階からの市民参画と柔軟な事業展開
 - ③息の長い公園づくり
- アダプティブ・マネジメント（順応的管理）

(2) 事業手法

都市公園法に基づく「都市林」が最適、補助金も

【必要な施設】

* 一般利用者向けの施設

- ①駐車場：スペース規模は、利便性と自然の保全とのバランスを考える
- ②あずまや（簡易休息所）
- ③トイレ ④案内板 など

* 管理棟

トイレ、水道、会議スペース、倉庫（現地）
信太の森ふるさと館との連携
学習施設については、活動状況を見て検討。

【今後の進め方】

ゾーニングや管理運営形態、整備方針の検討など市・専門家・公募市民からなるワークショップでの検討と保全活動をはじめめる必要がある。

「基本方針」(案) 答申をみて

市民の意見が反映した里山自然公園を！

信太山に里山自然公園を求める連絡会 会長 山千代重榮

今回、信太山丘陵市有地の保全・活用が決定されたことに伴い、私自身の信太山に対する想い、感想を述べてみたいと思います。

和泉市が平成10年度から取り組んできた「北部公共施設整備事業計画」に関わったのは、平成15年、地元の町会長をしているときでした。当時、自衛隊演習場内にある介在民有地の中に自町所有の溜め池もありました。市は平成16年、介在民有地を買収し、それらの土地と等価の1ヶ所(16ha)を防衛庁と交換して、そこに、北部公共施設整備事業を進めると計画しました。しかし、市は財政難を理由に平成17年事業の5年間凍結を決めました。そして、平成22年「和泉再生プラン」で凍結解除後、同施設の在り方を2年間検討し、施設費を半減して平成25年より着手すると発表しました。

この地域の湿地には、かつて、ハッチョウトンボが生息し、全体には絶滅危惧種に指定されている動植物が50種以上生息していると云われています。この信太山丘陵は、往古より「森は信太」と言われ多くの歌人が和歌に詠んでいます。また、この丘陵の大部分は、聖神社の社林地として守られてきましたが、明治以降は陸軍の演習場となり、一部地元の入会地として使用されたこともあり、大規模開発から免れ里山的環境が守られてきました。しかし、昭和40年代に入り、高度経済成長と共に信太山丘陵周辺にも開発の波が押し寄せ、大規模な宅地開発(鶴山台など)がなされ、あっという間に池や遺跡が消えてしまいました。そして、この度は前述の交換地(Sゾーンと呼ばれた)に大規模なスポーツ施設建設が計画されたのでした。貴重な動植物を守ることは勿論ですが、「もう信太山丘陵に開発の手を入れるな」「われわれのふる里に手を入れるな」というのが保存運動に参加した動機でした。



ツツジ咲く小径
5月

運動に参加した人々の思いは様々でしたが、「大規模開発中止」「自然環境保護」「動植物保護」という点では意見が一致しました。そして、平成22年12月「信太山に里山自然公園を求める連絡会」として結集しました。その後は、事務局の花田氏を中心として、会員全員が、役所・議員への陳情、学習会・シンポジウムの開催、平成23年7月には、市長に「自然環境の保全に関する要望書」を、市議会には「請願書」とともに1万名を超える市民の声を届けることができました。

同年9月、和泉市内外の要望に応じて和泉市議会は「信太山丘陵市有地の自然環境の保全に関する請願」を採択しました。世は正に民主党政権下「コンクリートから人へ」の時代でした。

翌平成24年6月、市は「北部公共施設整備事業」を撤回して、「信太山丘陵市有地保全活用検討委員会」を設置し、自然環境の保全と活用などについて検討を行うことが決定され、今回の答申を受けることになりました。

答申の内容は、具体的なことでは(ゾーニングなど)今後検討されねばならない課題を残しながらも、基本的な認識では私たちが要望してきた方向を示しています。これは、市民ひとり一人の環境や自然保護に対する思いが議会を動かし、行政を動かしたことに他なりません。

私たちは、今後「ワークショップ」などを通じ市民の意見が反映した里山自然公園づくりを公民協働の一端を担って目指したいと思っています。

検討委員会に参加して

公募検討委員 三輪健一郎

(NPO法人いずみの国自然館クラブ)

和泉市の自然教育が気になって NPO 法人いずみの国の自然館クラブを立ち上げたのが平成17年のことでした。以来自分の得意分野の昆虫を初めとして、植物や鳥の得意な人にも協力を頂いて和泉市の自然についての調査を始めました。和泉市の自然は、槇尾山や父鬼町を中心とした山間部、松尾寺を中心とした中央丘陵部、そして北部市街地近くに奇跡的に残された信太山周辺の自然があります。信太山の自然はもちろん自衛隊の存在のおかげである事は明らかです。蝶の種類数では文献調査も含めると、山間部で55種、中央丘陵部で53種、信太山周辺で56種を数えることが出来ます。和泉市全体では71種類であることを考えるとそれぞれの地域がその特徴を主張しながら立派な自然を形成していることが解かります。

信太山については、まるで関東地方の平地や信州の高原のようにジャノメチョウが豊富なことに驚きました。古い標本だけが残っている幻のギンイチモンジセセリ（チョウ）を探しに行った事も懐かしい思い出ですが、「あれ！ひょっとして？」と思う個体も目撃しています。6月上旬の激しい雨に打たれた後に非常に珍しいウラナミアカシジミに出会ったこともあり、調査活動は楽しみです。



参考・ウラナミアカシジミ

高等学校の教諭をさせて頂いていることもあって、市の公募による保全と活用の検討委員会に参加し、子ども達の情操教育や、和泉市民だけでなく広く周辺住民の疲れた心を癒してくれる自然公園として活用していくことに役立ちたいと思いました。

初めての参加した市の検討委員会は、有識者3名と私を含めた市民公募委員3名の6名で構成されていました。市が引いたレールを非常に慌しく走って行ってパブリックコメント出す行政の手法のすごさ（じっくり検討する余裕を持たせない）を強く感じましたが、私どもの意見も十分に反映して頂けましたので、満足しています。次年度以降のワークショップでも積極的に関わって行くつもりです。

信太山は和泉市の宝の山

公募検討委員 露口裕子

(和泉夢と歴史を創る会)

1 昨年1万名を超える市民の皆さまの署名を戴き、和泉市が信太山をスポーツ公園構想から里山保全の方向へと大きく舵を切った事を受けて、和泉市信太山丘陵市有地保全・活用検討委員会が発足 致しました。

市民代表3名のうちお二人は何十年來の信太山通のNPO法人の方々。私は保全活動の時から初めて参加させて戴いた里山1年生。でも小さい時から遊んだふる里の山として信太山には格別の思いがありましたので、とても楽しく会合に参加させて戴く事が出来ました。学識経験者3名とNPO法人のベテラン2名の方が専門的な事は検討して下さい、内容が素晴らしいと多くの方々から評価された基本方針が出来上がり市長に答申されました。そして今年から市民の方々のワークショップが行われることとなります。

皆で里山の絵を信太山と言うキャンバスに描いてゆく楽しい作業の始まりです。専門家の方にも加わって戴き、ワイワイ・ガヤガヤと新しいものを

創り上げていくドキドキした気持ち。何とも言えない喜びです。

今日はお弁当を持って家族で参加して根笹の処理を。今日は枯れ葉を集めて焼き芋を焼いて皆で食べよう。今日は久しぶりに友人を誘って活動に参加しておいしい山の空気を一溢体に入れてこよう。私は信太山のボランティア観光ガイドをやろう。できれば菜園もあればいいな。何十人も 寄ればこれからのワークショップでどんなにか楽しい企画やアイデアが出て来る事でしょう。何かを創り上げていくという事は感動の連続です。自衛隊があると言う事で奇跡的に残った住宅街近くの、大阪でも珍しい里山。市民にとっては貴重な和泉市の宝の山です。

古来からの歴史が各所にちりばめられている信太山。草花や鳥達・虫たちの絶滅危惧種が生息する里山。新しい21世紀の環境保全の価値観「自然との共生」を公民協働で創り上げていく意味は絶大です。その活動が私たち一人ひとりの心と体の活性化となり、喜びとなってその輪が次々と広がり繋がり、信太山が温かな夢のあるコミュニケーションの場となっていくことを願わずにはおれません。

検討委員会の感想

公募検討委員 田丸八郎

(NPO法人 信太の森FANクラブ)

信太山丘陵を第二の故郷として付き合いしてきた者の一人として、また生物多様性に満ちたこの里山的自然環境を後世に残す運動に携わった者の一人として「市有地保全・活用検討委員会」の市民委員に応募しました。

委員会への参加が決まり、市役所から届いた検討内容に目を通したとき、その中身に不十分さはあるものの「これは凄いいぞ」と思わせるものがありました。そこには、みなさんからいただいた一万を超える請願署名の重みが文字となって滲み出ており、まさに私たちが求めてきた里山自然公園

へと一步踏み出した内容になっていたからです。

5回開催された委員会では審議時間も短く、具体的なことまで決めることはできませんでしたが、各委員の前向きな発言の中で、市有地の保全と活用に係る基本方針が決まり、2月13日に答申が行われました。

今後、ワークショップを実施するなかで管理棟の問題やゾーニングなど具体的なことが決まっていくこととなりますが、できればワークショップにも積極的に関わっていかねばならないと考えています。

基本方針では「公民協働」として「公の役割」とともに「保全活動に広く主体的に参画」し、「信太山丘陵を守る担い手を育成することも重要」として「民の役割」をうたっています。「民の役割」を果たしていく上で、その責任の重さをひしと感じているところです。



フモトスマイレ4月

- * 3名の公募検討委員のみなさんは大変ご苦勞さまでした。
- * 検討委員会の審議に於いて、特に、湿地や草地の特性、里山的環境の保全を明確化する上で重要な役割を果たしていただきました。

信太山に里山自然公園を求める連絡会

総会のご案内

と き：‘13年5月19日(日)

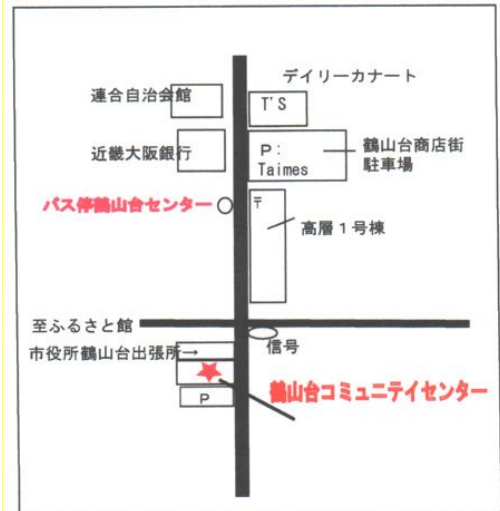
13：30～15：30

会 場：鶴山台コミュニティセンター

- 内 容：*
- * 信太山丘陵市有地保全活用検討委員会の答申について、報告と学習
 - * 今までの活動の総括と今後の計画
 - * その他、会計報告など

総会参加資格

- * 連絡会参加団体の会員
- * 連絡会個人会員
- * 連絡会へ参加を希望されている方 (オブザーバー)



答申を受けて、‘13年度はワークショップや保全作業が開始されます。連絡会の役割も重要になってきます。里山自然公園の実現に向けて今後とも力や知恵の結集を図っていきましょう。多数のみなさんのご参加を心から訴えます。

信太山丘陵自然観察会のご案内

日 時	集合・場所	主な観察
4月28日(日)9:00～12:00	惣ヶ池公園 9：00	春の植物の芽吹き
5月26日(日)9:00～12:00	惣ヶ池公園 9：00	夏の渡り鳥、イシモチソウ

- * 毎月、第4日曜日、午前9：00～12：00の予定で実施、雨天は中止
- * NPO法人 信太の森FANクラブが主催しています
- * 参加費 (保険料・資料代) 一人 200円
- * 惣ヶ池湿地・和泉市有地 (公園予定地) などを観察します